

千葉市とOpenStreetは、2018年からシェアサイクルの実証実験をスタートさせ、その成果を受けて2020年に本格運用へと移行しました。また、2024年からは特定小型に対応した電動サイクルの実証実験も開始しており、現在では約500カ所のステーションが設置され、毎月3万人以上のユーザーに利用されるサービスへと成長しています（2024年3月時点）。

特に、国家戦略特区に指定されている幕張新都心エリアは、職場・住宅・教育施設・ショッピング施設などが集積していることから、特定の需要に依らず、通勤通学・買い物・回遊利用など、平休日問わず幅広い層の住民や来街者に利用いただいています。

2017年7月に施行された「千葉市自転車を活用したまちづくり条例」は、自転車利用の推進を目的としており、シェアサイクルはその一環として導入当初より官民連携での利用促進・インフラ整備を進めていました。現在も地域の補完交通インフラとして、例えば幕張新都心モビリティコンソーシアムに参加するなど、官民や事業者の枠を超えて地域課題に向き合い、官民協調でのまちづくりを推進しています。



海浜幕張駅



ZOZO マリンスタジアム